



広報 つるおかの 医療相談



庄内病院の医師が
疑問を解決！

○問合せ 庄内病院総務課 ☎26 - 5111

漢方内科

疲労感に効く漢方を知りたい

漢方では、私たちが元氣よく活動するパワーの源を「氣」と呼びます。氣が不足していると、朝になかなか起きられなかったり、何をしてもやる気が起きなかつたり、すぐに疲れてしまつたり、生理が止まつてしまつたりするなど、日常生活に影響を及ぼします。また、消化器の働きが鈍っている人は、食後にけん怠感や眠気が現れます。

けん怠感などの「未病」を改善するのは、漢方薬の得意分野です。このような状態の場合、「補中益氣湯」という「補劑」が、氣などの不足を補つて回復につなげるのに最適です。中(胃腸)を補い、体の氣を増やすという意味から「補中益氣湯」という名前が付けられています。「人参」をはじめ「蒼朮」「黄耆」「芍薬」「陳皮」など、10種類の生薬を配合。元氣がなく、内臓の働きが弱りがちで、疲れやすい患者さんによく使われます。弱つていた消化吸収の働きを整え、氣

を補うことができます。

庄内病院の漢方内科

日本東洋医学会漢方専門医が、患者さんの心身が発する症状などから病氣の全体像を捉え、新陳代謝と自然治癒力などを用いた身体全体へのアプローチを行います。

冷え性、更年期、不眠症、神経症、自律神経失調、手足のほてり、体力低下、アトピー、ぜん息、肌荒れ、頭痛、めまい、肩こり、むくみ、腰痛、関節痛、神経痛、頻尿、慢性副鼻腔炎、中耳炎、口内炎、歯周病、機能性胃腸症、肥満、便秘、がん治療の副作用と思われる症状の方、また虚弱児の方などは、ご相談ください。



漢方内科医師
八木 実

耳鼻咽喉科

慢性扁桃炎の治療は？

扁桃炎には急性と慢性の2種類があります。急性扁桃炎の場合は軽症、中等症、重症などの症状の重さによって消炎鎮痛剤や抗生剤の内服、点滴で治療します。慢性扁桃炎には急性扁桃炎を繰り返す病態として習慣性扁桃炎(反復性扁桃炎)があり、その経過についてはウイルス性か細菌性かは問われません。

当科では4歳以上の患者さんに手術を行っています。小児の場合、扁桃肥大を原因として、いびきや呼吸障害があるときは、手術適応としています。扁桃炎については、年3回〜4回の扁桃炎を2年〜3年継続する病態の場合などを1つの基準として、患者さんの希望も含めて手術を行っています。ただこの基準は絶対的なものではなく、国や地域によって様々ですので、断定的ではありません。

ご相談の息子さん場合は手術の適応の範囲であると考えられます。しかし、経過観察で年齢とともに扁桃炎回数が減少して、自然に快方に向かう場合もありますので、かかりつけの主治医とよく相談をして決定することが大事です。手術を行う場合は全身麻酔をしますので、入院が必要です。入院期間は通常1週間以内になります。

庄内病院の耳鼻咽喉科

耳、鼻、喉の疾患の診断や治療のほか、新生児の難聴の診断やめまい症、顔面神経まひの診断や治療、耳や鼻、喉の異物の摘出等を行っています。開業医の先生との連携を大事にしながら診療に当たっています。より詳細な検査、治療が必要な場合は、日本海総合病院に依頼する場合もあります。



耳鼻咽喉科医師
五十嵐 敬郎

8歳になる息子は、数か月に1度扁桃腺の腫れと高熱、のどの痛みといった症状を繰り返しています。扁桃腺の手術をした方が良いでしょうか。